

教育目標 ◎自分で深く考える子 ◎思いやりをもって助け合う子 ◎がんばってやりとげる子



～一人一人が輝き、幸せな学校～

佐々木小

令和7年11月18日
新発田市立佐々木小学校
学校だより 第15号



苦しさを乗り越えて！

全力で走っている子どもたち。息も上がり、苦しそうな表情です。そんな子どもたちは、どこを見つめて走っているのでしょうか。折り返しの目印、友達の背中、足下の地面、そしてまだ見えぬゴール、苦しさや疲れの中で、一歩ずつ足を進めるために、何かを見つめ、自分を励ましているはずです。心の中では、「頑張ろう！」「あと少し！」「負けたくない！」「あきらめちゃだめだ！」と自分自身と戦っているに違いありません。

楽な子は一人もいません。みんなが苦しいはずです。でも、そんな苦しさを乗り越えた自信と喜びはかけがえのないものです。走り終わった後の子どもたちの笑顔が成長の証です。

いじめやトラブルを防ぐために

校長 金平 弘之郎

先日、持久走記録会、新発田市小学校音楽交歓会が行われ、佐々木小学校の子どもたちの活躍する姿にとても感動しました。ひとつのことに打ち込む子どもの姿はとても輝いています。

たくさんの子どもたちの輝く姿がたくさん見られる学校ですが、私が一番気にしていることは子どもたちの人間関係のことです。この佐々木小学校は、人数が少なく、保育園から中学校までほとんど同じ友達同士で過ごすため、人間関係が狭くなりがちです。さらにその関係が中学校へ行っても変わりません。そのため、子ども同士の様々なトラブル（いじめ、けんか等）が起こった際に、固定化された人間関係上、しこりが残りやすく、事態が深刻化してしまいます。実際に大変な事態も起こっています。そのために、いじめやトラブルをまず未然に防ぎ、しこりが残らない初期段階で対処できるように生徒指導体制の改善が喫緊の課題と捉えています。

これまでの子どもたちのいじめ行為やトラブルを見ると、深い意図はなく、いたずら気分になってしまうもの、お互いの主張が強くぶつかり合ってしまうもの、故意に相手を貶めるもの、繰り返して相手を追い詰めてしまうものなどがあります。きっかけや理由がいかなるものでも、人をいじめてはいけなし、人を傷付けてはいけません。

学校では、いじめは絶対にしてはいけなしと子どもたちに伝えてきていますが、それがまだまだ十分に子どもたちに浸透していないことを痛感しています。私たちが指導において何が足りないのか、対策や対応に何が不足しているのか、しっかりと検証し、より自校に即した防止策や対応策を立てていかなければなりません。

防止面では、まだ考え方や精神面が幼い子どもです。理性よりも感情で動いてしまうことが多々あります。自分では、いじめになるとは思っていないこともあります。何がいじめになるのか、人を傷付けないようにするためにはどう行動すればいいのか、根気強く指導していく必要があります。ただ、これを学級担任任せにしてしまえば全校体制による効果が期待できません。いじめをさせない、良好な友達関係を築く教育活動を全教職員で再検討し、計画的に行う必要があります。「道徳の時間」や「人権教育、同和教育」の時間を核にして、いじめに焦点付けた授業を繰り返し行うこと、クラスでの些細なトラブルやいじめの問題が起きた時、子どもたち同士で話し合い自治的な学級を築くこと、学校・学級のルールを明確に示すことなど、子どもたちが自分で考え判断し、いじめやトラブルを起こさないような土台を作らなければなりません。

対応面では、いじめやトラブルを初期の段階で見逃さないことが大切です。やはり深刻な事態になっているものは、様々な兆候を見逃してしまっています。そのために、子どもと教師との信頼関係をより築くこと、職員間の情報共有をより確実にすること、過去の記録を全員が確実に把握しておくこと、アンケートのみに頼らず生の子どもの声をたくさん拾い、多方面から児童理解をすることなど、より早期発見につながる対策を立てていきます。さらに校内体制を整備し、今以上に迅速な全校体制での共通理解、外部機関との連携を図っていきます。

上述したことをもとに自校の「いじめ防止基本方針」をより実態に即したものに改善し、着実な対策を行っていきます。11月には新潟県の「いじめ見逃しゼロ強調月間」です。これから12月にかけて、校内そして中学校と連携して子どもたちのいじめやトラブルに対する意識を高めていきます。また、いじめやトラブルを防ぐために、保護者の皆様、地域の皆様からもたくさんのお力添えをいただき、子どもたちを見守っていただければ幸いです。

